

# 清和大学ソフトボール部 鈴木恒行コーチプロフィール

東京都学生ソフトボール連盟 50周年記念誌  
「本連盟OB・OG取材」より



SUZUKI  
TSUNEYUKI

出身校：千葉県立市原高校-国士舘大学  
ポジション：投手

成績：高校時代 青森国体出場（1977年）  
大学時代 全日本 IC（1978年～1981年）  
関東 IC 準優勝（1980年）  
教員時代 国体成年男子出場（優勝1回）  
全国教員大会（優勝3回）

## ◎職歴

市原市公立中学校教員  
千葉県教育庁体育課  
市原市立中学校教頭  
市原市教育委員会国体推進課  
市原市立若葉小学校校長  
市原市立国分寺台西中学校校長  
市原市教育委員会青少年指導センター所長  
市原市立若葉中学校校長（2020年3月退職）  
清和大学（2020年4月より）

## ※派遣等

文部科学省教員海外派遣  
企業派遣（ホテルポートプラザちば）

## ◎指導歴

市原市公立中学校女子ソフトボール部監督  
全日本中学校ソフトボール大会出場  
1990年 1995年の2回  
千葉県中学校選抜チーム監督  
国体成年男子千葉県チーム監督・コーチ  
清和大学ソフトボール部コーチ（2020年4月～）

## ◎指導者資格

日本スポーツ協会ソフトボール公認コーチ3

## ◎受賞歴

日本スポーツ協会優秀指導者表彰  
全国学校体育研究功労者表彰  
千葉県学校体育功労者表彰

## ◎役職等

千葉県ソフトボール協会副理事長・事務局長  
千葉県競技力向上推進本部普及育成部会委員  
千葉県スポーツ協会評議員

## ソフトボールを始めたきっかけ

高校入学時は、野球部に入学をされました。2年生の時にソフトボール同好会ができましたが、野球部もソフトボール同好会も、部員不足で互いに協力して大会に参加していませんでした。その後、ソフトボール同好会の先生から強く誘われて、2年生の夏からソフトボール部に入部しました。経験のなかったソフトボールを体験するうちに、野球よりも球速の遅いソフトボールの球が打てるように打てなく、スピード感のあるソフトボールのプレーに魅力を感じて、次第にソフトボールに興味をそそられて行きました。

大学に進んでもソフトボールを続けたかと思いはじめた時に、先生方から国士舘大学を勧められました。高校の途中から始めたソフトボールですが、大学でもピッチャーとして挑戦したくて、国士舘大学ソフトボール部に入部しました。今思えば、野球からソフトボールに変えたことが、人生を大きく変える事にもなったと、ソフトボールとの出会いに感謝しています。

## 大学時代の思い出

大学時代の思い出は、1年生のデビュー戦と、3年生の秋のいわゆる関カレの日体大戦です。大学1年生のリーグ戦がデビュー戦で、初打席初ホームランの方が記憶に残っています。まだ、ピッチャーというよりも野手の感覚が強かったのか、今でも鮮明に記憶しています。3年の関カレは優勝を逃してしまっただけで、今でも悔しい思い出として残っています。1点先取しましたが、エラー絡み2点を返され逆転負けでした。当時の日体大は圧倒的に強かったもので、日体大に勝つことを目標に練習していたのです。4年間のリーグ戦で2回日体大に勝った事がありまして、日体大に勝った事はいつまでも誇りで非常に嬉しい思い出です。

投げていました。私は、清水さんにお願いで、投げ方を指導してもらいました。その頃名前がついていませんでしたが、今言うローライズ等も教えてもらいました。

日体大と国士舘は、リーグ戦やインカレで競い合うライバルでしたが、ピッチャー同士では、お互いに切磋琢磨して覚えていこうと言うところがあって、非常に良い経験ができました。

## 大学生に期待すること

今、大学生の黄金期が来ていると思います。ソフトボールを通して、技を磨くだけではなく、人間形成とかコミュニケーションづくり等、様々な体験を重ねて欲しいと思います。また、大学卒業後も、ソフトボールで培った人間力を活かして、自分の目標に向けて頑張ってもらいたいと思います。多くの企業の方々から、ソフトボール経験者は、一味違うとの評判を耳にします。ソフトボール競技の特性が、人間形成に役立つと思います。厳しい競争の中で切磋琢磨したことが、今後に生きていきます。ソフトボールのできる環境に感謝して、一日一日を頑張ってください。